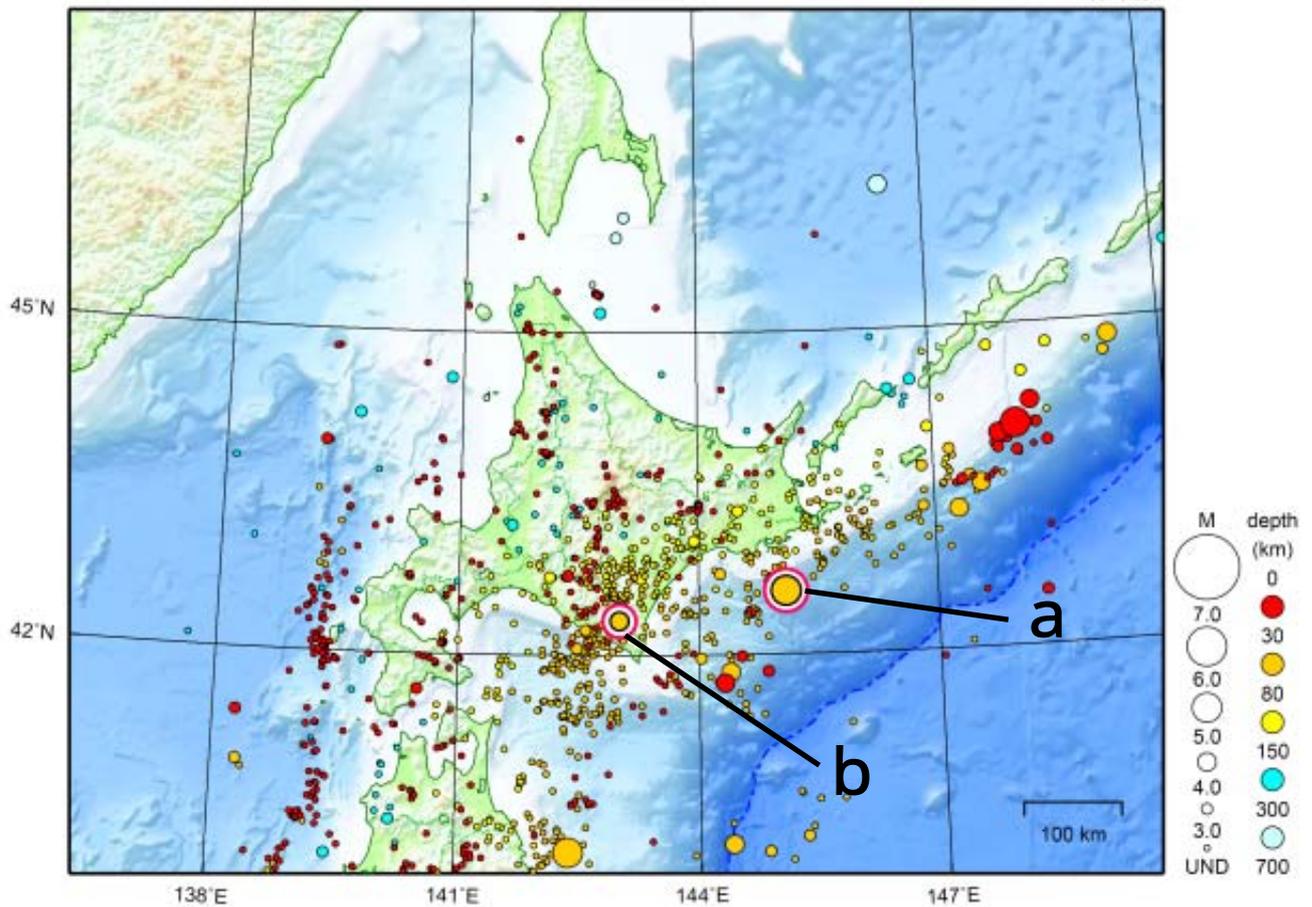


# 北海道地方

2009/04/01 00:00 ~ 2009/04/30 24:00

N=1267



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

- a ) 4月28日に釧路沖で M5.4 (最大震度4) の地震が発生した。
- b ) 4月5日に日高支庁東部で M4.8 (最大震度3) の地震が発生した。

(地図の範囲外)

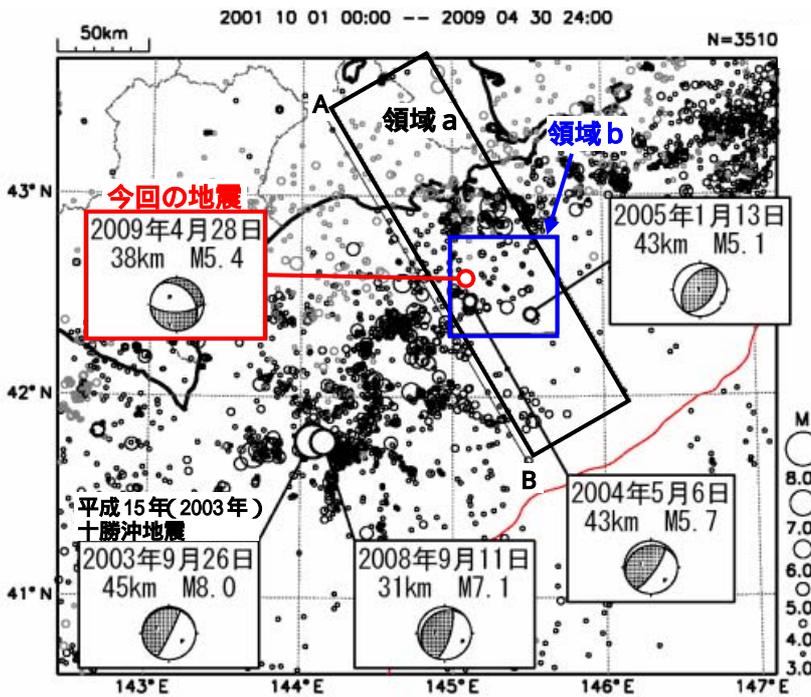
- 4月7日に千島列島で M6.7 (最大震度3) の地震があった。
- 4月19日に千島列島で M6.5 (最大震度3) の地震があった。

[ 上述の地震は M6.0 以上または最大震度4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度3 以上のいずれかに該当する地震。]

# 4月28日 釧路沖の地震

震央分布図

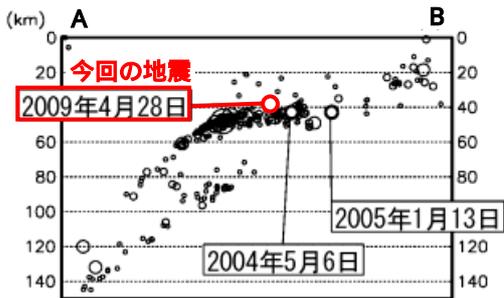
(2001年10月以降、深さ0~150km、M 3.0)  
深さ60km以浅を濃く表示、発震機構はCMT解。



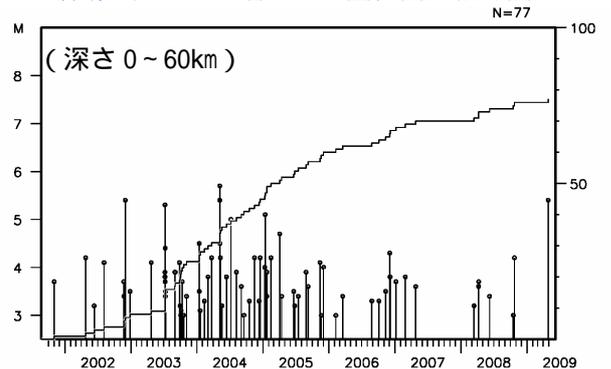
2009年4月28日20時21分に釧路沖の深さ38kmでM5.4(最大震度4)の地震が発生した。陸のプレートと太平洋プレートの境界付近で発生した地震と考えられる。発震機構(CMT解)は北北東-南南西方向に張力軸を持つ型で、この付近では珍しい型であった。

2001年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域a)では、2004年5月6日にM5.7(最大震度3)の地震が発生するなど、M5.0以上の地震が時々発生している。

領域aの断面図(A-B投影)

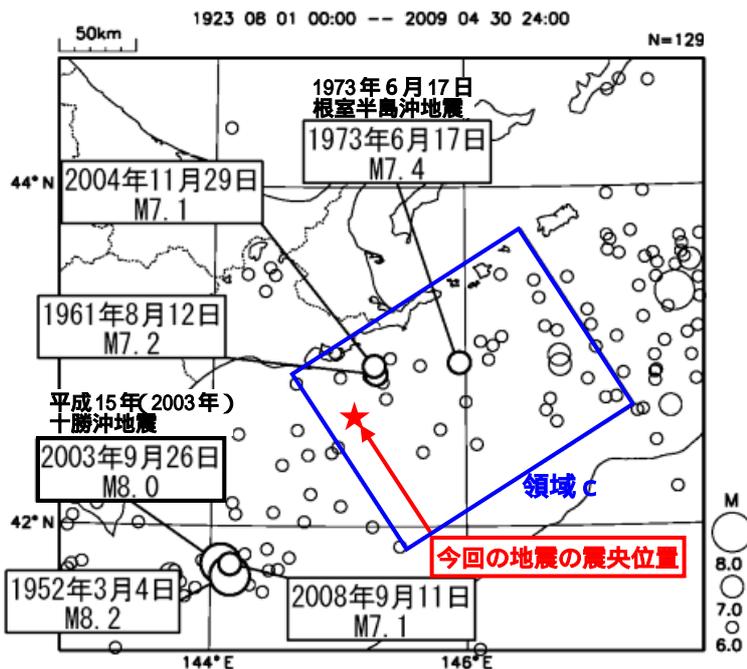


領域b内の地震活動経過図、回数積算図



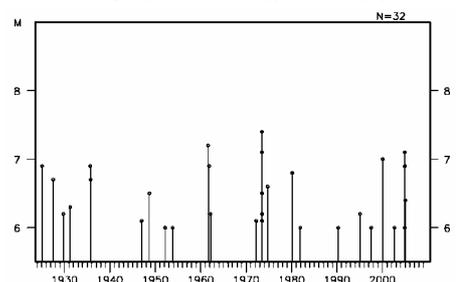
震央分布図

(1923年8月以降、深さ0~60km、M 6.0)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺はM7.0以上の地震が時々発生している場所で、今回の地震の震央の北東側で「1973年6月17日根室半島沖地震」(M7.4、最大震度5)により負傷者52名、津波による被害等が発生した(「最新版 日本被害地震総覧」による)ほか、最近では2004年11月29日の地震(M7.1、最大震度5強)により、負傷者52名等の被害を生じ(総務省消防庁による)、根室市花咲で12cmの津波を観測した。

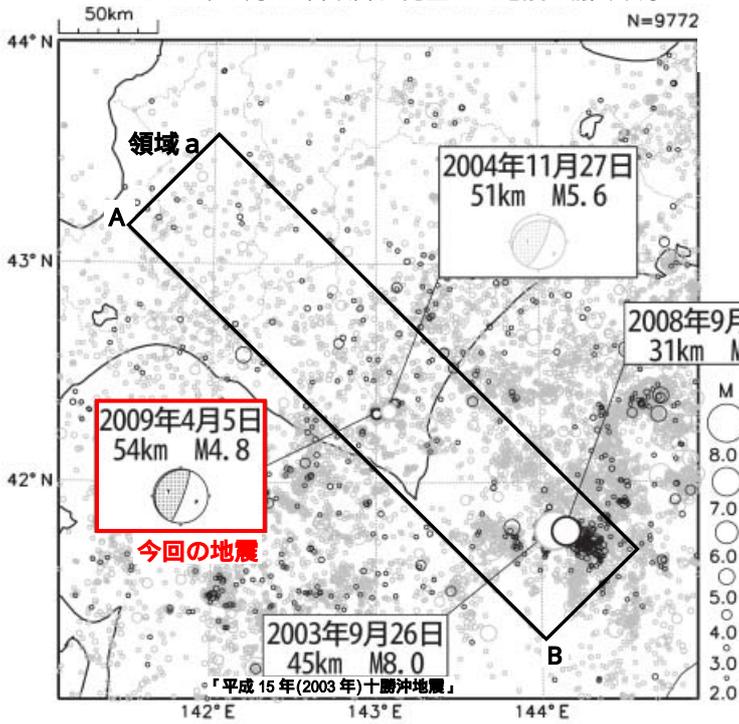
領域c内の地震活動経過図



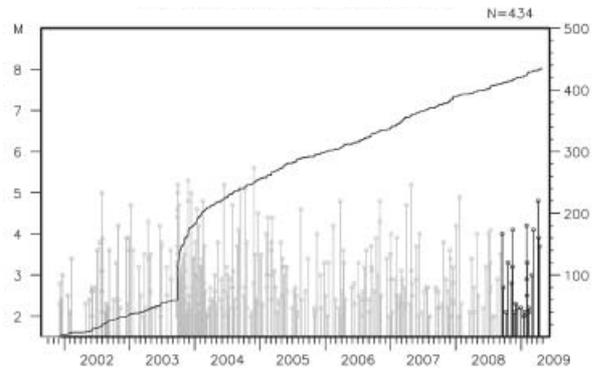
# 4月5日 日高支庁東部の地震

震央分布図

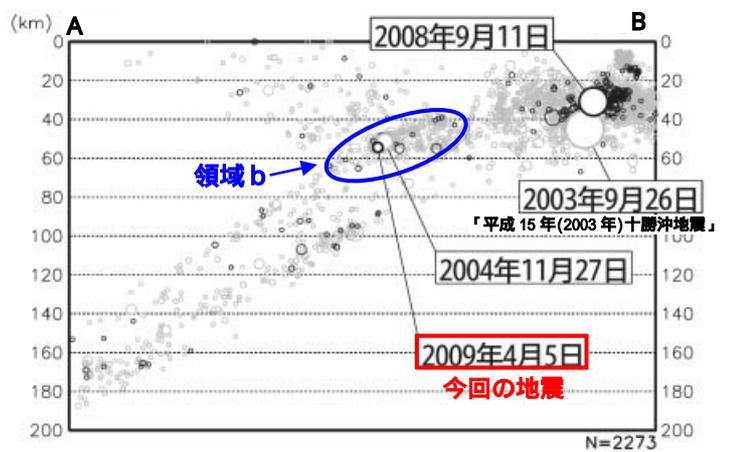
(2001年10月以降、M 2.0、深さ0~200km)  
2008年9月11日以降に発生した地震を濃く表示



領域 b 内の地震活動経過図、回数積算図



領域 a 内の断面図 (A - B 投影)

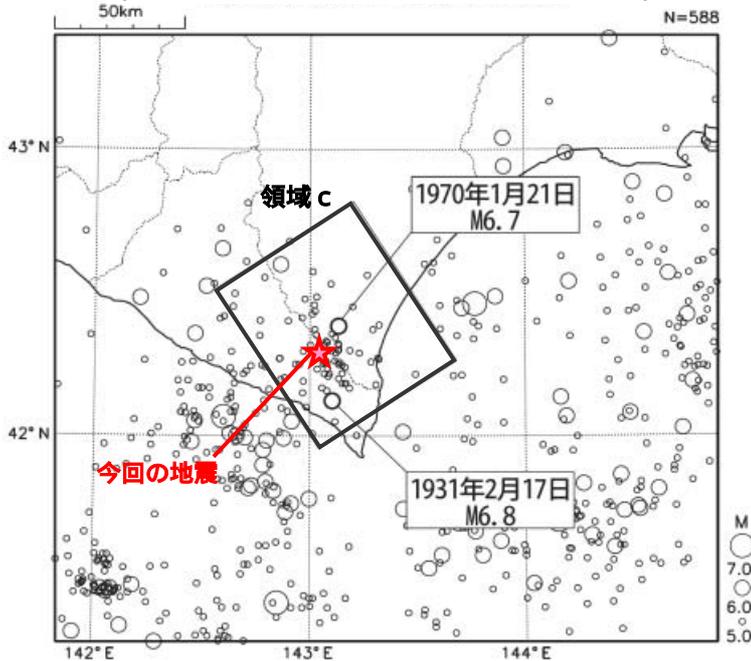


2009年4月5日17時00分に日高支庁東部の深さ54 kmでM4.8 (最大震度3) の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西 - 東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

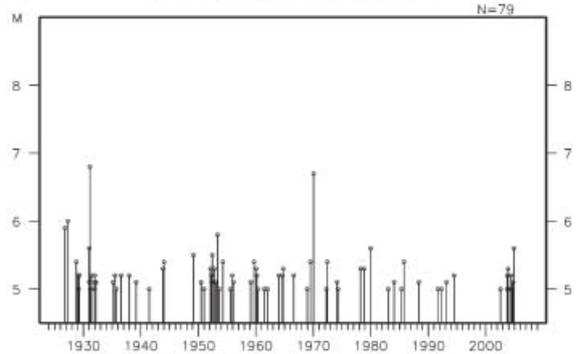
今回の地震の震源付近 (領域 b) は、「平成15年(2003年)十勝沖地震」の直後に地震活動が活発になった地域で、2004年11月27日にはM5.6 (最大震度4) の地震が発生している。

震央分布図

(1923年8月以降、M 5.0、深さ0~100km)



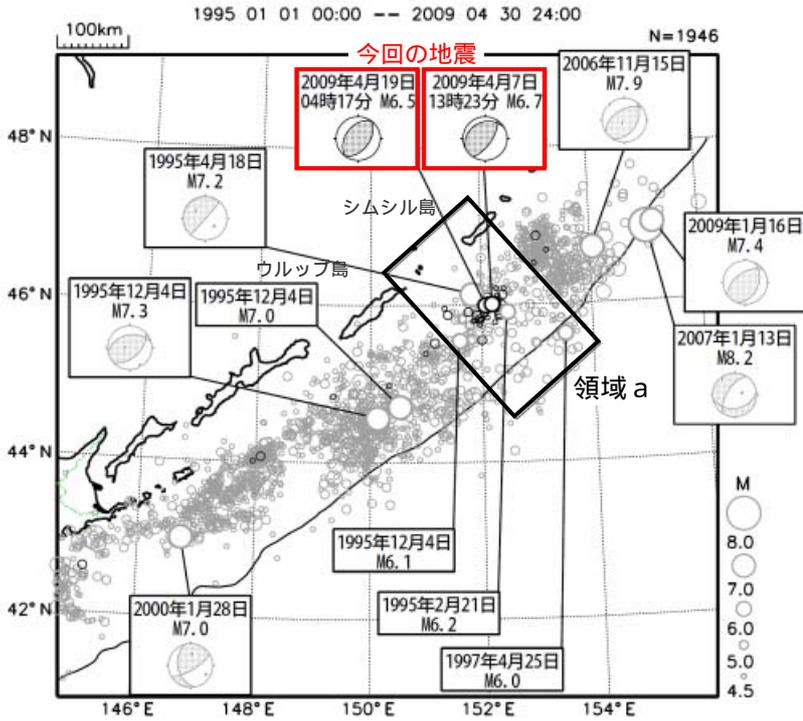
領域 c 内の地震活動経過図



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央周辺 (領域 c) では、M5.0以上の地震が度々発生しており、1970年1月21日に発生したM6.7の地震 (最大震度5) では負傷者32人、住家全壊2棟などの被害が生じた (被害は「最新版 日本被害地震総覧」による)。

# 4月7日、19日 千島列島の地震

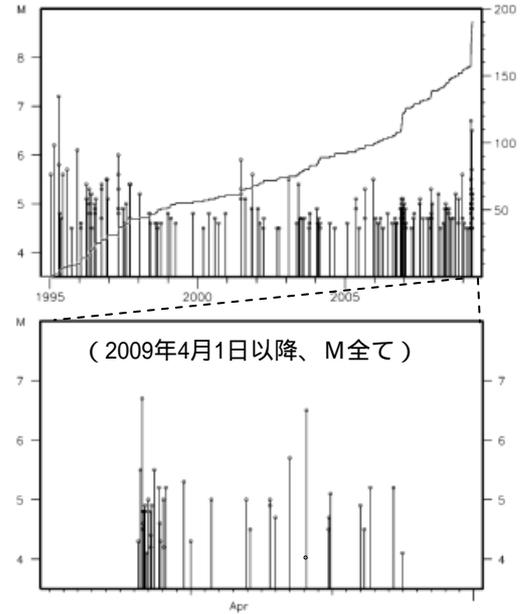
震央分布図 (1995年1月以降、深さ0~100km、M 4.5)  
2009年3月以降の地震を濃く表示、発震機構解はCMT解。



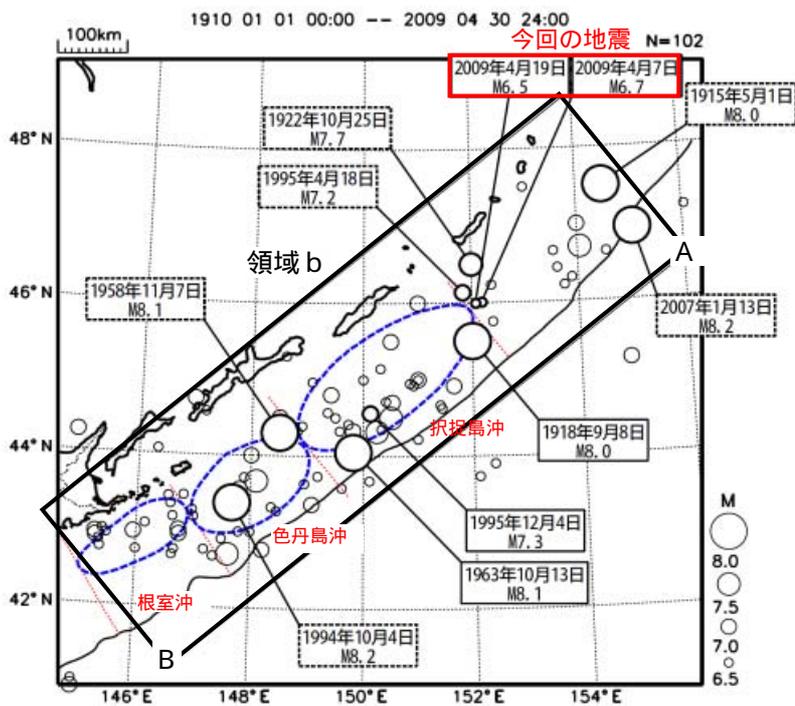
1995年以降で今回の震央周辺 (領域 a) の地震活動を見ると、M6.0以上の地震が時々発生しており、最大は1995年4月18日のM7.2 (最大震度2) の地震である。

千島列島で2009年4月7日13時23分にM6.7、4月19日04時17分にM6.5の地震 (いずれも国内最大震度3) が発生した。発震機構 (CMT解) はいずれも北西 - 南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸側のプレートの境界で発生した地震と考えられる。

領域 a 内の地震活動経過図・回数積算図

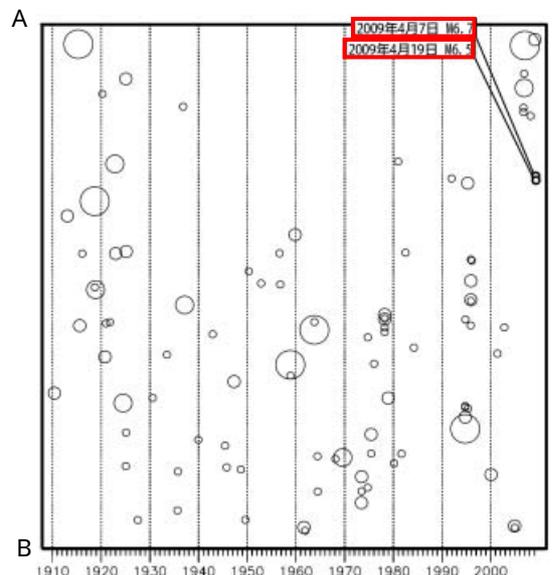


震央分布図 (1910年1月以降、深さ150km以浅、M 6.5)



1910年以降で今回の震央周辺の地震活動を見ると、M7.0以上の地震が時々発生しており、最大は1918年9月8日のM8.0の地震である。

領域 b の時空間分布図 (A - B 投影)

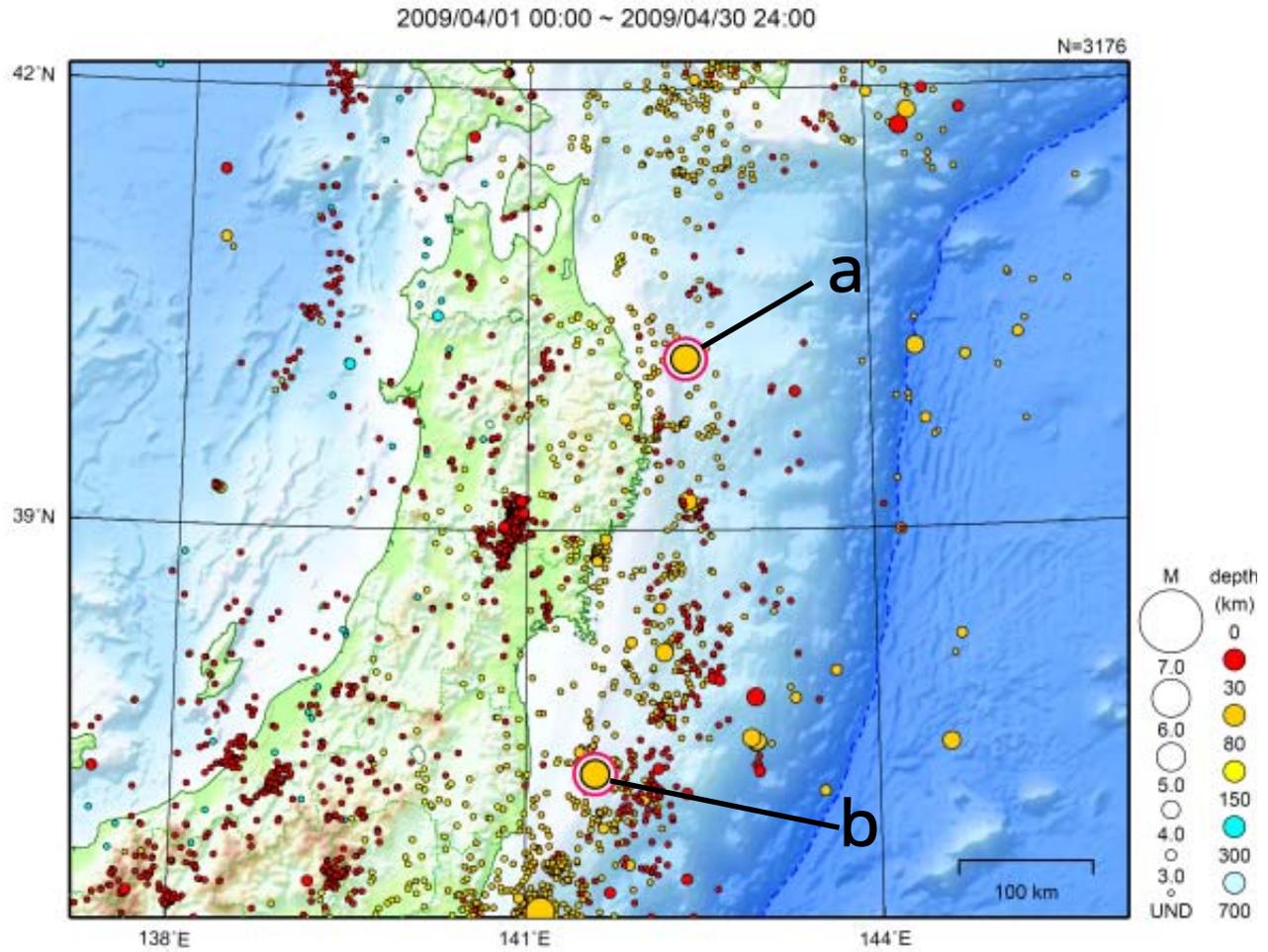


地震調査委員会による千島海溝沿いの想定震源域

1923年7月以前の地震の震央は、歴史記録等からの推定位置であり、灰色のシンボルで示している。

黒実線枠の吹き出しは、太平洋プレートと陸側のプレートの境界で発生したと評価された地震。

# 東北地方



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

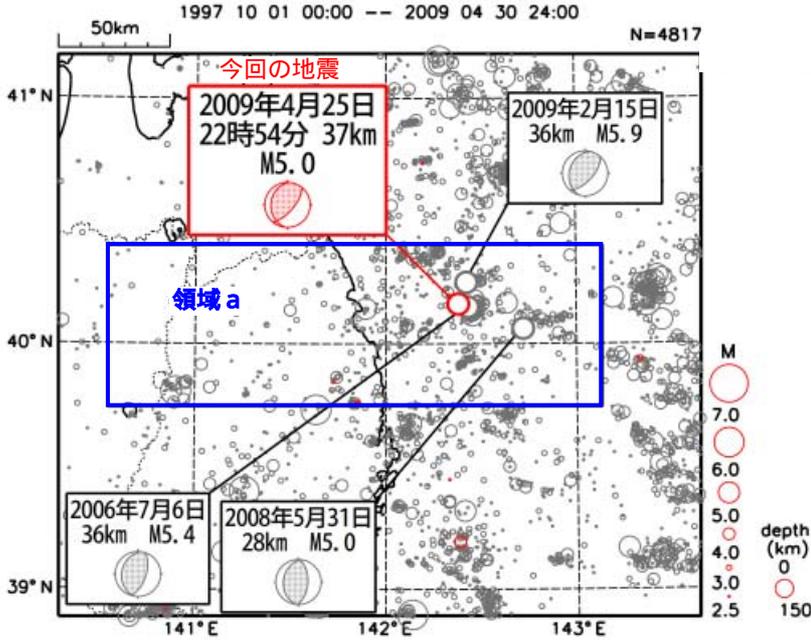
a) 4月25日に岩手県沖で M5.0 (最大震度3) の地震が発生した。

b) 4月21日に福島県沖で M5.2 (最大震度3) の地震が発生した。

[ 上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

# 4月25日 岩手県沖の地震

震央分布図(1997年10月以降、M 2.5、深さ0~150km)

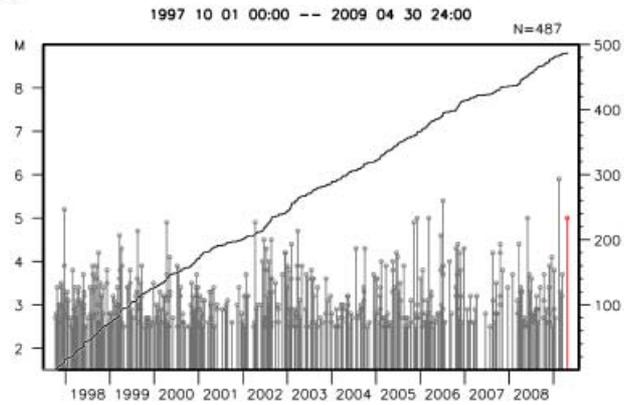


2009年4月25日22時54分に岩手県沖の深さ37kmでM5.0(最大震度3)の地震が発生した。この地震の発震機構は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震は観測されていない。

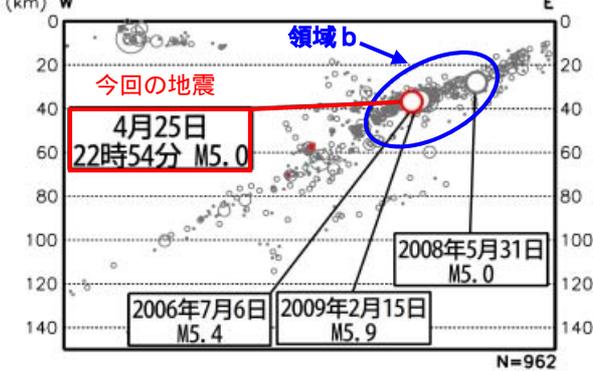
今回の地震の震源付近(領域b)はM5程度の地震が時々発生している場所である。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の近い場所で今年(2009年)2月15日にM5.9の地震が発生している。この地震は同領域では最大規模である。

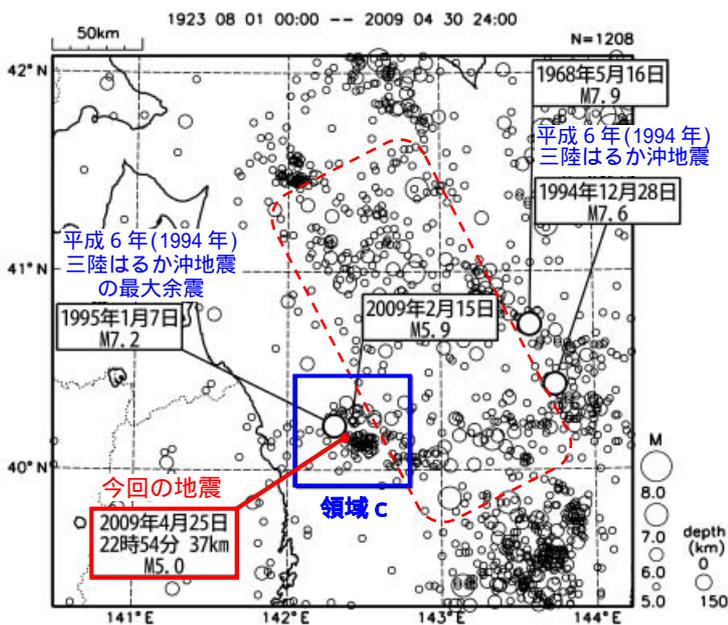
領域b内の地震活動経過図及び回数積算図(M 2.5)



領域a内の断面図(東西投影)

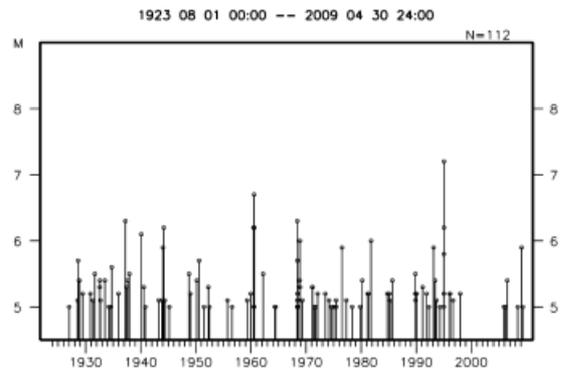


震央分布図(1923年8月以降、深さ0~150km、M 5.0)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域c)ではM7.2の地震(「平成6年(1994年)三陸はるか沖地震」の最大余震、最大震度5)が発生している。この付近はM6~7程度の地震が時々発生するなど、活発な地震活動が見られるところである。

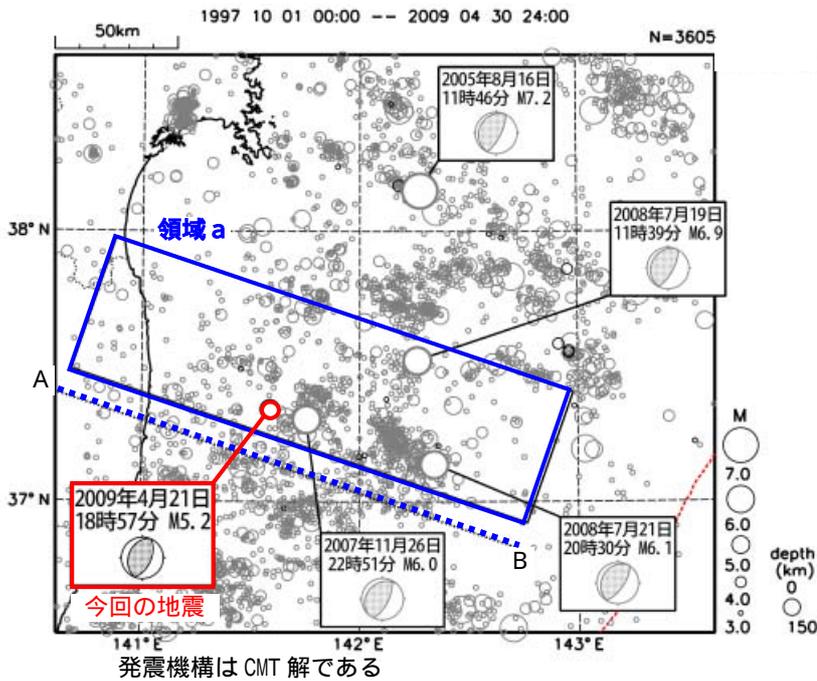
領域c内の地震活動経過図



三陸沖北部のプレート間地震の想定震源域(地震調査委員会による)

# 4月21日 福島県沖の地震

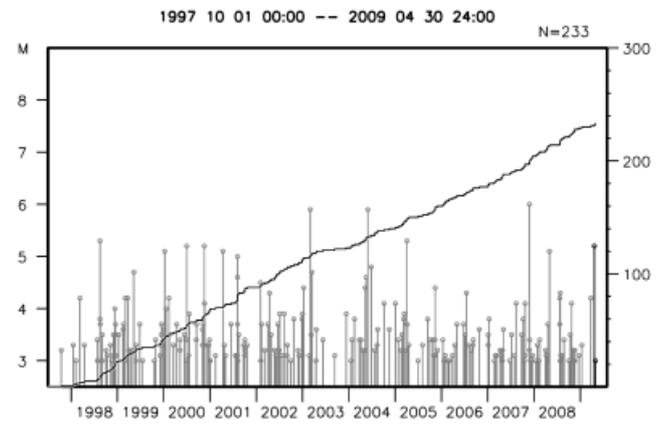
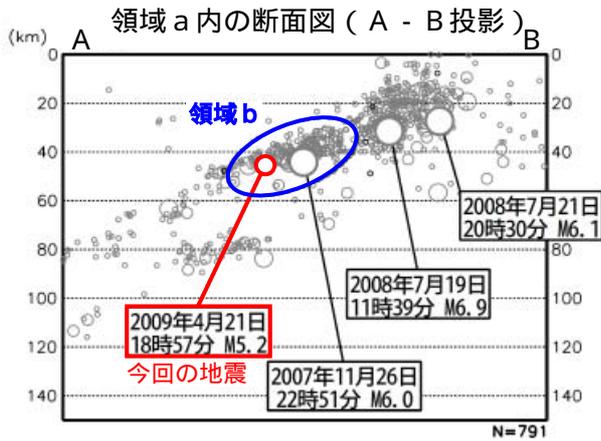
震央分布図(1997年10月以降、M 3.0、深さ0~150km)



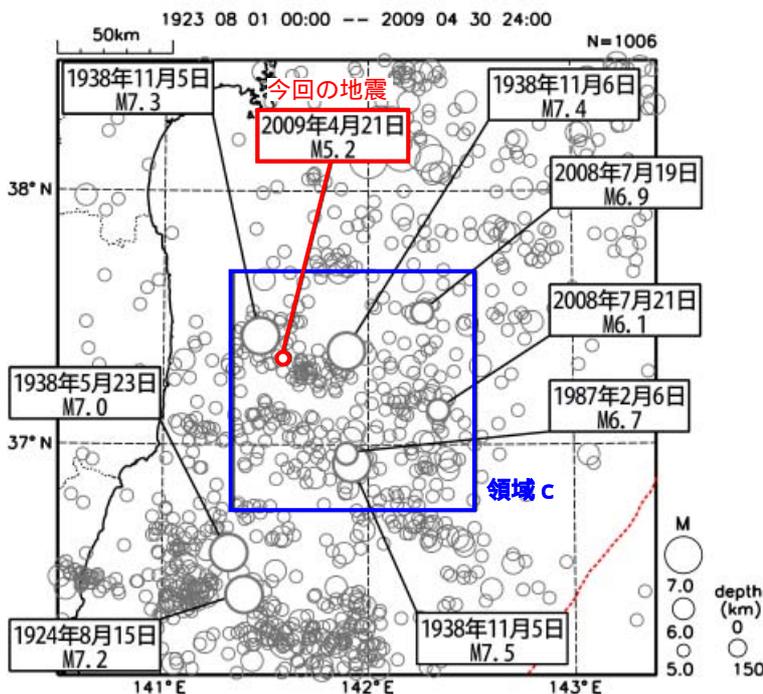
2009年4月21日18時57分に福島県沖の深さ45kmでM5.2(最大震度3)の地震が発生した。この地震の発震機構(CMT解)は西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。余震活動は低調であった。

1997年10月以降の活動を見ると、今回の地震の震源付近(領域b)では、2007年11月26日にM6.0(最大震度4)の地震が発生している

領域b内の地震活動経過図及び回数積算図

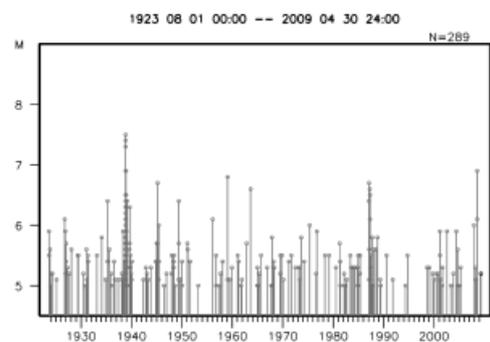


震央分布図(1923年8月以降、深さ0~150km、M 5.0)



1923年8月以降の活動を見ると、今回の地震の震央付近(領域c)はまとまった地震活動が見られるところで、1938年にはM7クラスの地震がまとまって発生するなど活発な地震活動があった。最近では1987年にM6クラスの地震がまとまって発生している。

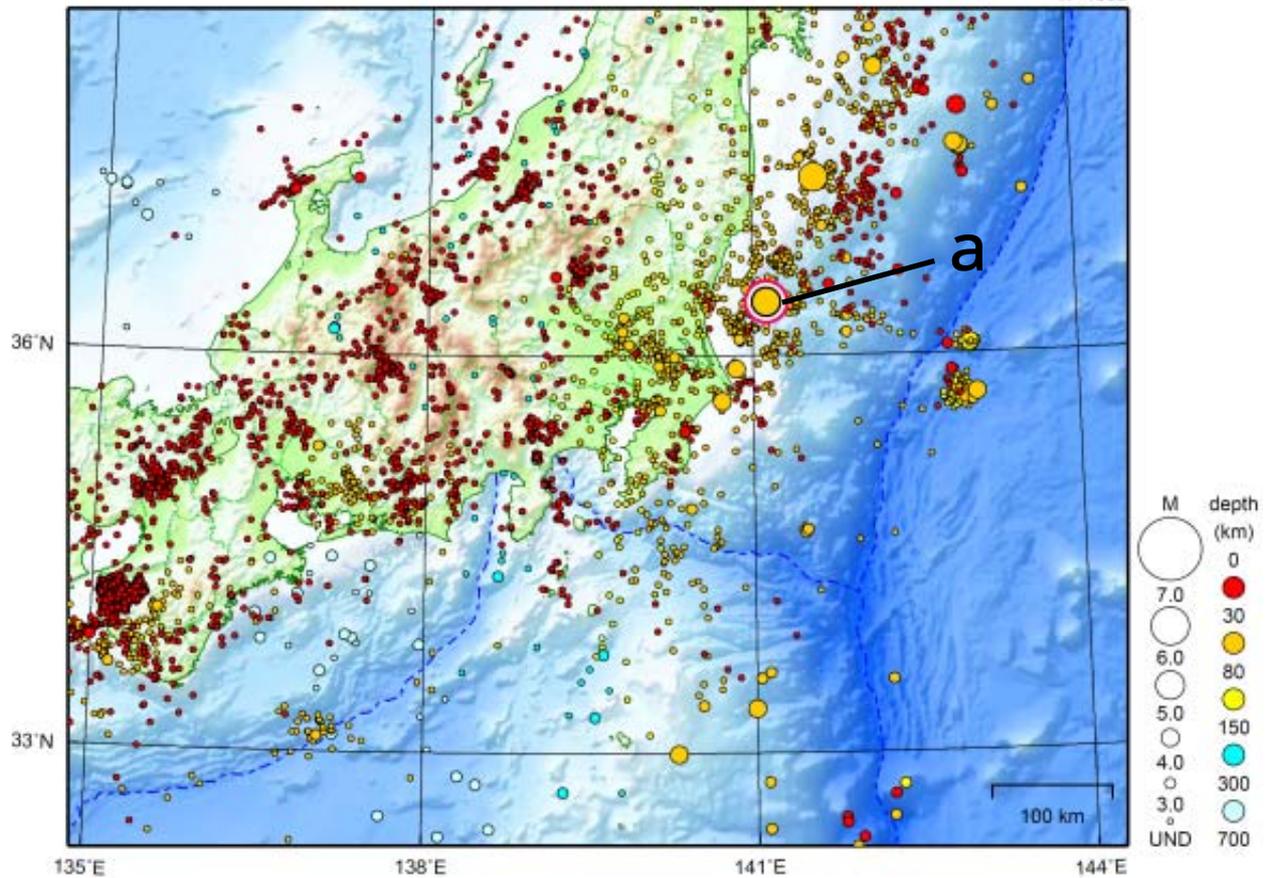
領域c内の地震活動経過図



# 関東・中部地方

2009/04/01 00:00 ~ 2009/04/30 24:00

N=4502



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOPO30、及び米国国立地球物理データセンターの ETOPO2v2 を使用

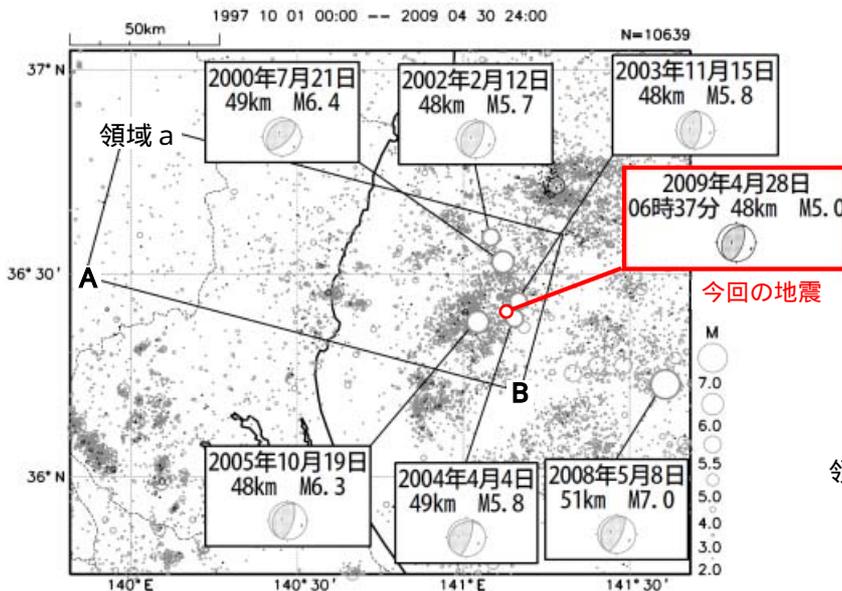
a) 4月28日に茨城県沖で M5.0 (最大震度3) の地震が発生した。

[ 上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

# 4月28日 茨城県沖の地震

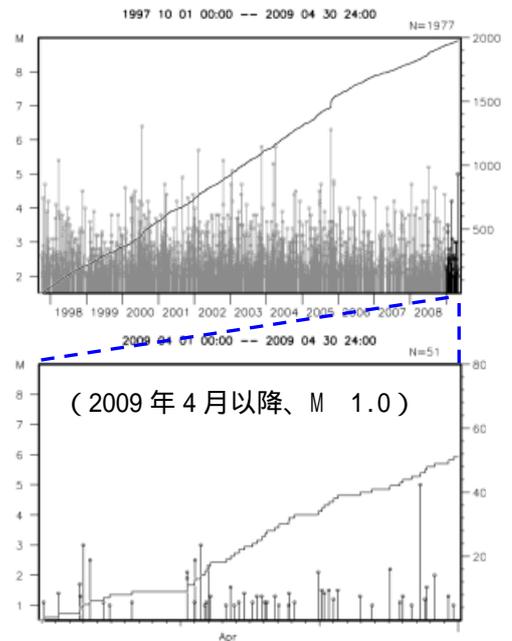
震央分布図（1997年10月以降、深さ0~120km、M 2.0）

2009年1月以降の震源を濃く表示。発震機構解は全てCMT解。

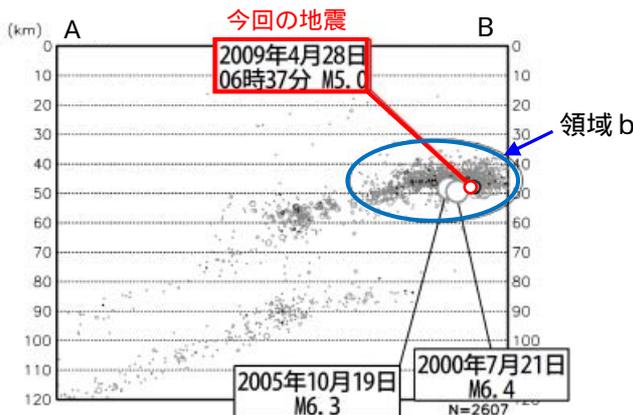


2009年4月28日06時37分に茨城県沖の深さ48kmでM5.0（最大震度3）の地震が発生した。発震機構（CMT解）は、西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。今回の震源はプレート境界付近の地震活動が活発な領域の中に位置し、付近ではM5.0以上の地震が時々発生している。最近では、2005年10月19日にM6.3の地震（最大震度5弱）が発生し、茨城県と千葉県で負傷者各1名の被害が生じた（総務省消防庁による）。

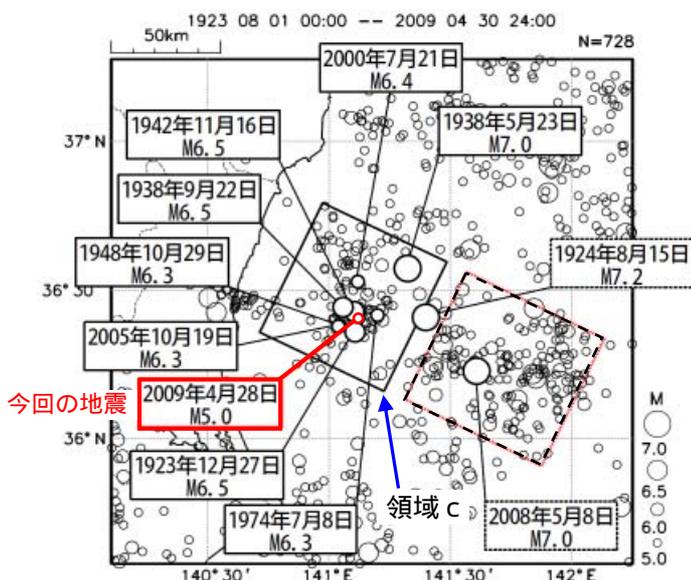
領域b内の地震活動経過図、回数積算図



領域a内の断面図（A-B投影）

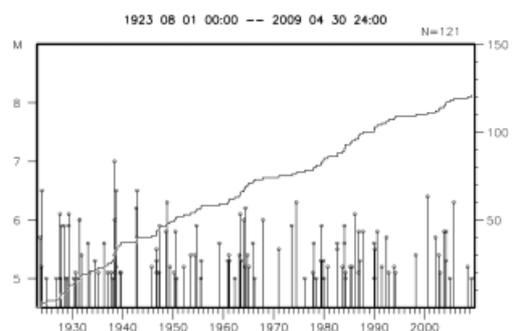


震央分布図（1923年8月以降、深さ0~90km、M 5.0）



1923年8月以降、今回の震央周辺では、M6.0以上の地震が時々発生している。1938年5月23日にはM7.0の地震が発生し、この地震により津波を観測（検潮所における最大の高さ小名浜41cm）するとともに、福島県と茨城県で建物等に被害が生じた（「最新版 日本被害地震総覧」による）。

領域c内の地震活動経過図、回数積算図

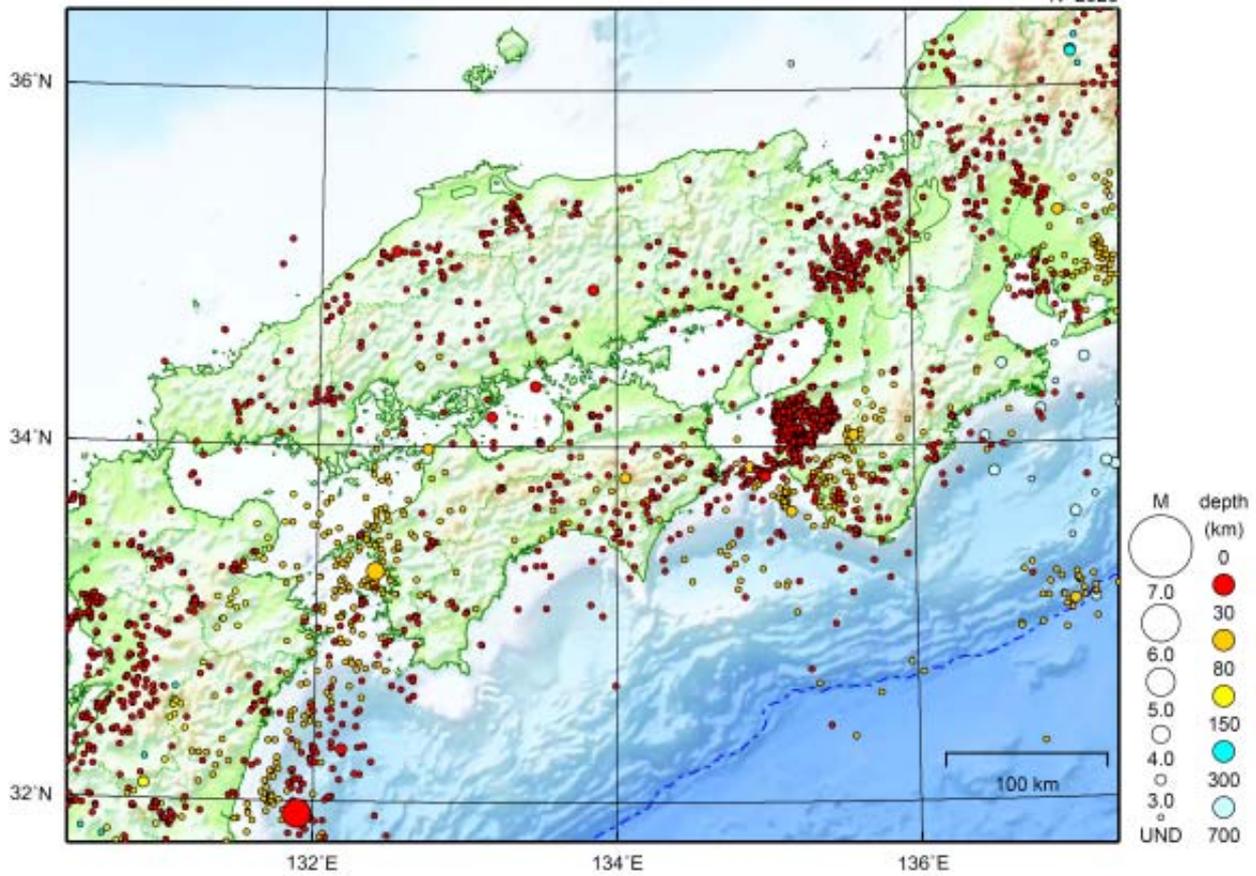


点線枠は地震調査委員会の長期評価による「茨城県沖の一連の地震」の想定震源域（点線枠の吹き出しは、「茨城県沖の一連の地震」に含まれることを表す）。

# 近畿・中国・四国地方

2009/04/01 00:00 ~ 2009/04/30 24:00

N=2926



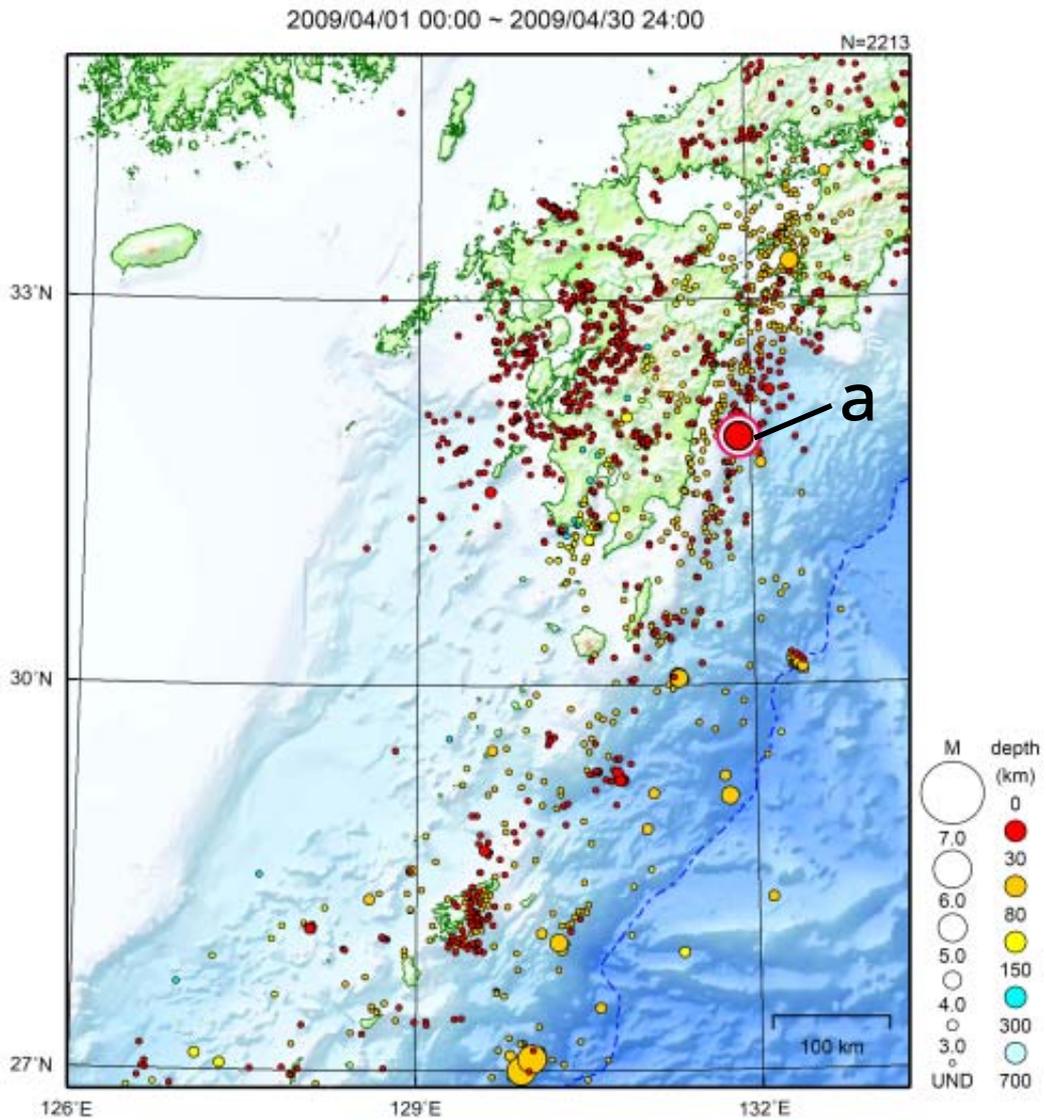
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省

# 九州地方



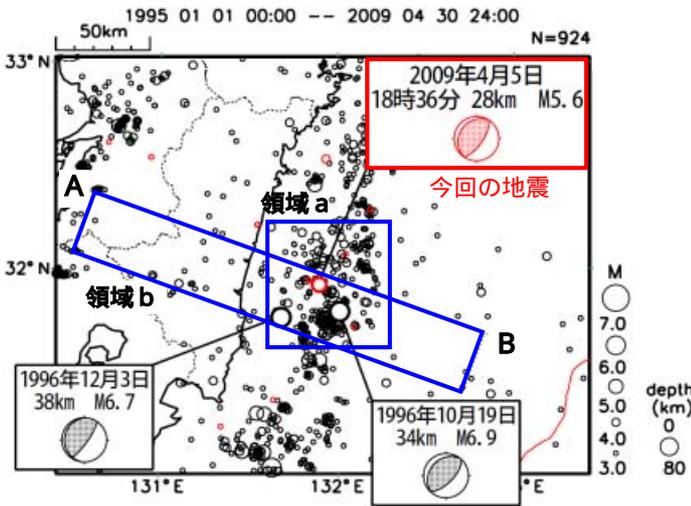
地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

a) 4月5日に日向灘で M5.6 (最大震度4) の地震が発生した。

[ 上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

# 4月5日 日向灘の地震

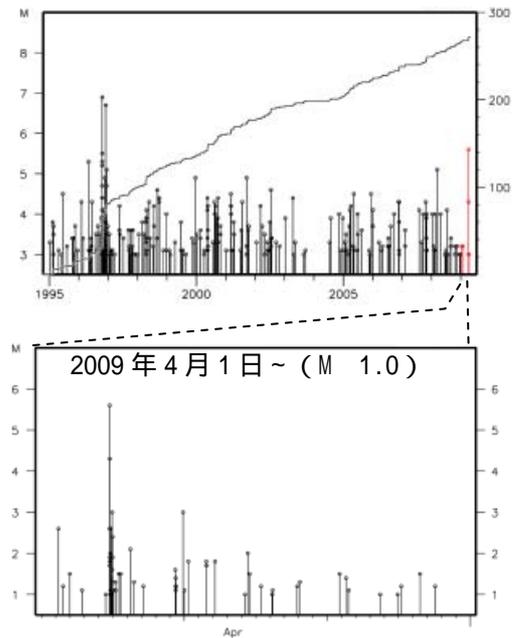
震央分布図  
(1995年1月以降、深さ0~80km、M 3.0)  
発震機構は全てCMT解



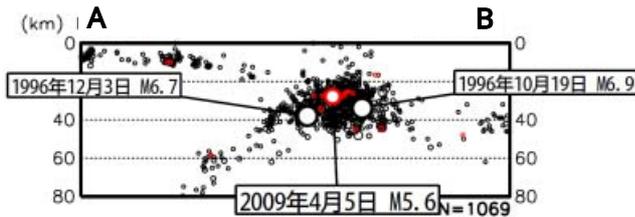
2009年4月5日18時36分に日向灘の深さ28kmでM5.6(最大震度4)の地震が発生した。発震機構(CMT解)は北西-南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、フィリピン海プレートと陸のプレートの境界で発生した地震である。

この付近(領域a)では、1996年10月19日にM6.9、同12月3日にM6.7の地震(共に最大震度5弱)が発生している。

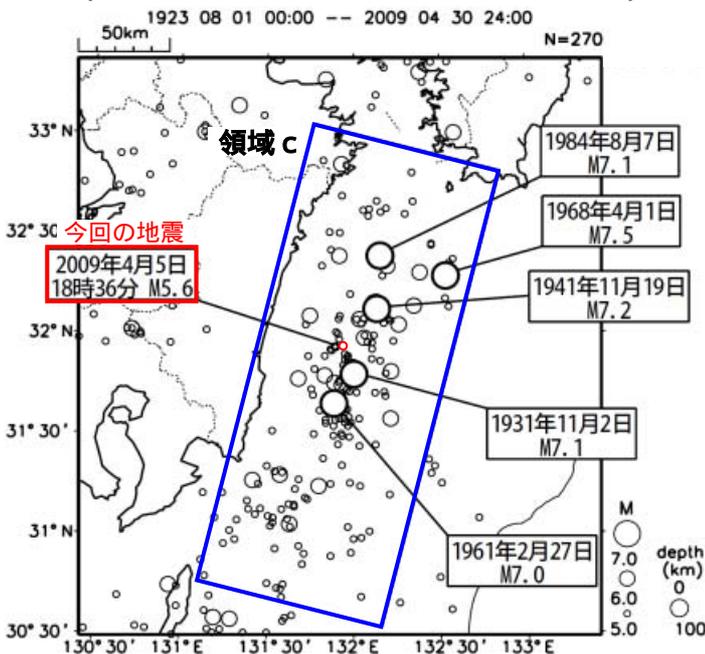
領域a内の地震活動経過図、回数積算図



領域b内の断面図(A-B投影、M 2.0)

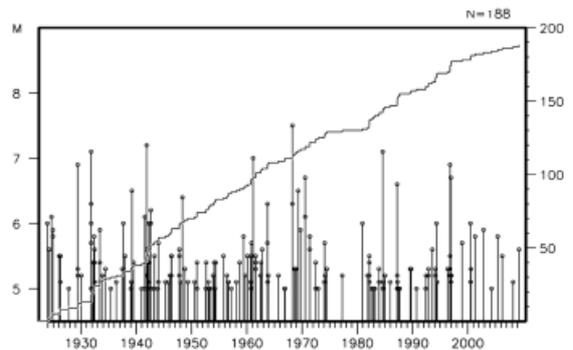


震央分布図  
(1923年8月以降、深さ0~100km、M 5.0)



1923年8月以降の活動を見ると、日向灘ではM7.0以上の地震が5回発生しており、最近では1984年8月7日にM7.1(最大震度4)の地震が発生している。

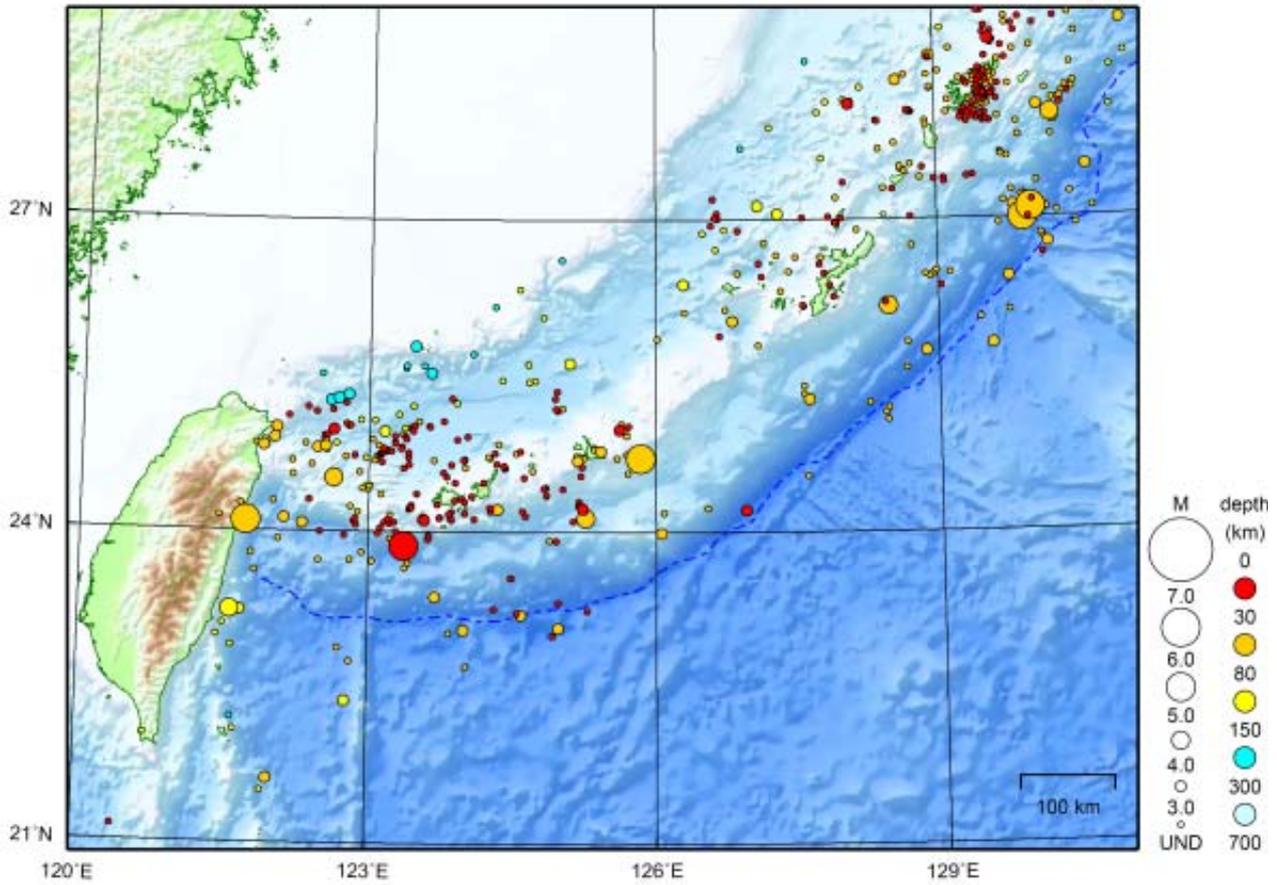
領域c内の地震活動経過図



# 沖縄地方

2009/04/01 00:00 ~ 2009/04/30 24:00

N=929



地形データは日本海洋データセンターの J-EGG500、米国地質調査所の GTOP030、及び米国国立地球物理データセンターの ETOP02v2 を使用

特に目立った活動はなかった。

[ 上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上のいずれかに該当する地震。]

気象庁・文部科学省